

月刊 介護は人なり 第21号 (平成23年12月)

(※ 小茂田が過去にご挨拶させていただいた方々にお送りしております。)

【発行】 アンビシャス株式会社 代表取締役 小茂田志郎 (こもだしろう)
〒343-0835 埼玉県越谷市蒲生西町 1-3-68 サテライト6ビル 3F
TEL: 048-990-8639 FAX: 048-990-8630 <http://www.1rankup.com>



【今月のテーマ】 違いを楽しもう!

みなさまこんにちは。いつもお読みいただきましてありがとうございます。早いものでもう新しい年を迎えようとしています。東日本大震災という大きな出来事があったこの1年。この出来事がきっかけで、多くの人たちが新たに「本当に大切なもの」に気づかされた1年だったのではないのでしょうか。お金では買うことのできない「本当に大切なもの」私もこの1年、実に多くの気づきがあった1年でした。

話は変わりますが、先日、島根県のお客様から講演のご依頼を頂いて行って参りました。講演会ではよくある光景ですが、先に来場したお客様は後ろのほうの席から順に座っていきます。だんだんと後部座席が埋まっていき、前のほうがスカスカに空いているのを事務局の方が見て、こんな風に声をかけていたのです。

前のほうから座っていただけますと喜びます

ご存知の方もいると思いますが、この「喜びます」の表現、島根県独特の言い回しなのです。「助かります」とか「幸いです」という意味で使われています。私は、この「喜びます」を聞くことができ、とても喜びました。

認知症ケアの研修会をお願いしている大阪の各務先生もコテコテの大阪弁なのですが、研修会の中でこんな表現が出て、関東では全く通じない言い回しでした。

え？お財布？どこかになおしたんでしょ？

狭い日本なのに、その地方独特の方言や言い回し、文化の違いを、私たちは楽しんでいるように思います。むしろ違いが無かったら、あまり面白くないのかも知れません。

仕事の現場においても違いが生じます。「意見が食い違う」「価値観が違う」「考え方が違う」などなど。なぜか仕事になると、自分と他人との違いを楽しむどころか、残念に思うことが多いと思います。ドラッカーは、人との意見が食い違うからこそ、より万全な意思決定が可能になると言います。そもそも意見は、一発でまとまるほうが怪しいのです。10人いたら10通りの意見があって当たり前。違いはチャンスなのですね。

★介護経営者のみなさま！次年度の事業計画づくりを始める前に、ぜひご参加ください！

『介護経営者「5つの質問」演習講座』 講師：小茂田志郎 (アンビシャス代表)

※平成24年2月7日(火) 10:00-16:00 東京・大井町きゅりあん 参加費 12,600円

「来年度こそは本格的にドラッカー経営を実践したい！」そんな意気込みのある経営者のみなさま、まずはドラッカー「5つの質問」をじっくり演習することがスタートになります。2月は5年先、10年先の未来をしっかりと創造して、3月に事業計画を作成する、こんなステップでいかがでしょうか？

●参加お申込みは → 048-990-8639 アンビシャスまで

Copyright© Ambitious Inc.

※インターネット検索は『介護に元気を!』

Ambitious
人と仕事の地球ネットワークを創造する